

夏秋トマト（ミニ）の肥培管理について

R4.7 アグリ技研(株)

1.生育状況について

本年産は、梅雨の期間での降雨も少なく梅雨明けも例年より早くなる見込みです。着果、茎葉の進捗も順調に見受けられます。今後は、猛暑による着果負担や高温乾燥による生育停滞が起き無い様な草勢維持に努めましょう。

2.一般管理について

(1)光合成作用の活性化について

気温の上昇と共に、ハウスの内は高温乾燥により一気に葉の気孔も閉じてきて光合成作用も低下することで生育にも変化を来たします。今後は収穫の最盛期に入って来ますので草勢維持には天候を見ながらの環境管理に努めて頂きたいと思えます。

①光合成作用は、水と炭酸ガスで生成されるために、晴天日にかけては十分な灌水に努め、通路部にも高温乾燥時には、週に1～2回は灌水をします。

②光合成で生成した「糖分」を果実や根に運搬するにも「カリ肥料」は必要ですから収穫期間は特に「カリ肥料」を上手に使用しましょう。

◎ウルル18号の場合は、5日間隔では5kg・7日間隔では10kg

◎カリっとの場合は、7～10日間隔に1kg（ウルル7号等に混用灌水処理）

◎ウルル10号・7号・5号は生育に応じて5日間隔で10kg（少量分散追肥）

(2)草勢維持について

①葉面散布には、「コラーゲン・ラボ」500倍で週に2～3回(生長点に処理)

☆コラーゲン・ラボは糖度のアップ、茎葉維持に効果☆

②根張の充実には、「アミクエ」5～10kを5～7日置きに灌水処理

☆収量安定には、細根を白く維持します☆

③光合成促進の葉色アップには、「クドグリーン」500倍で葉面散布

④茎葉の硬化や肥大促進には、「PKゴー」2000倍で葉面散布

⑤茎葉の病害対策に「AB金」1000～3000倍で葉面散布（防除時混用）

⑥土壌の肥料成分を見る場合には、ECは0.5～0.7ms、硝酸態窒素は15～20kg/10a前後を参考にしましょう。